

Title	三田哲學會例會記事
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	1936
Jtitle	哲學 No.16 (1936. 7) ,p.240- 241
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000016-0240">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000016-0240</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

### 三田哲學會例會記事

○昭和十一年四月二十八日(火)午後三時銀座交詢社に於て例會 出席者三十四名。

國家 家 觀

川合貞一君

先づ、プラトン、アリストテレスより近世に至る迄の個々の國家理論を紹介せられ、結局、國家の正しい理論は社會の本質構造を究めて其上に建設せねばならぬと結論せられてゐる。

それ故に、如上の個々の國家理論も、その理論のたてられた社會狀勢に基いて解釋されねばならぬ。此の點、マルクスの唯物史觀にも採るべき所がある。社會の本質構造には既にヴェントが其倫理學の中に於て國家成立の過程をば

(一) 家族の擴大による國家成立、  
(二) 征服による國家成立、の二種に分類したことに對應して

家族的國家と征服國家との二種の Idealtypen がある。此の中、後者は大多數の國家に就て妥當するものであり、之に反し、前者は極めて稀にのみ妥當するものである。

以上の見地から、具體的に日本の國家社會並に其他の國家社會とを解釋せられ、更に國家と法の關係が是等國家そのものの性格によつて規定せられるものなる事を説明せられたのである。

○昭和十一年五月二十七日(水)午後三時半銀座交詢社に於て

例會 出席者三十五名。

キリスト教の起原に就て

島原逸三君

此の問題を取り扱ふ場合に二つの矛盾した立場がある。即ち、一はキリスト教を信仰の對象とする立場であり、他はキリスト教は耶蘇に始まるとなす立場とである。第一の立場には、尙中世、近世の各時代に就て異つた取扱ひ方があるが、何れにしても連續的な因果關聯としての歴史を切斷する非歴史的な立場、即ち耶蘇と其後の教會史の關聯を無視する傾向がある。所が第二の立場は歴史的事であつてキリスト教を單に信仰の對象としての耶蘇に限定せず、それは單に耶蘇に始まつたものであつて其後更に諸種の社會環境殊にユダヤ教との關聯に於てポーロ等を経て次第に完成されて行つたものである事をば教會史の立場から研究して行くものである。

斯くて第二の立場に立つて具體的な解釋説明を加へられた。

○昭和十一年六月五日(金)午後四時 三田哲學會新入生歡迎會

内幸町大阪ビル、レインボーグレルに於て出席者三十四名。

川合、常盤、船田、小林、橋本、島原、新館、守屋、横山、西谷諸先生の挨拶及び感想の開陳あり、頗る盛會裡に終れり。

○昭和十一年六月二十四日(水)午後三時半銀座交詢社に於て例會 出席者二十四名。

# プラトン第七書簡の所謂哲學枝論に就て

青木 巖君

プラトンの書簡全體の過去より現代に至る運命史より論じ、特に第七書簡は今日殆んど萬人が一致してその眞作なる事を認め、それが現代のプラトン研究の動向に重要な意義を有する點を説く。尙ほリツナルの如き卓拔なプラトン學者がこの哲學枝論を後代の挿入に懸ると見做す見解に對し、文體、用語、歴史的事實、思想内容の諸點よりその全くプラトンのなる事を論證す。

次いで、如何に老年期の對話篇の思想と一致するかを顧慮しつつ、此枝論の哲學的内容の發展へ進んだ。此枝論全體としては認識論とか存在論よりも寧ろ學習論としての性格を具へてゐるが、認識論的には、此書簡に於て、イデアの所謂超越性が強調されてゐると共に、エピステイメとドクサの對立が後退し、後者が擴大され前者が縮小され、本質直觀としてのヌースが最も重きを爲してゐる點に注意し、此書簡を手懸りとして、如何にソクラテスのな定義の論理よりイデアの目的論的性格の強調へ、更に殆んど神祕的な直觀へ發展したかを明かにせんとす。而して、その關聯に於て、新プラトン主義を通じてアウグスティヌスの illuminatio へ發展すべき萌芽がプラトン老年期の思想に宿されてゐたかを説く。

三田哲學會例會記事

# 哲學科學生團體記事

## ○哲學研究會

### 定期講座

一、「現代哲學講義」 毎週水曜正午 於七十七番教室 橋本 孝君

二、「中世哲學史講義」 毎週木曜正午 於七十六番教室 船田 三郎君

### 定期研究會

一、「ヴィンデルバント近世哲學史序説」講讀 毎週火曜十時 於同會ルーム 松本 正夫君

## ○心理教育談話會

一、「心理教育新入生歡迎談話會」五月八日 於上野京成裏落。

第二回日本應用心理學會大會報告ヲ兼ヌ。報告者 西谷謙堂君、小池喜代藏君、林純藏君。

二、「第四十四回心理教育談話會」六月十九日午後六時半、於四谷醫學部職員會館 室「指導と被指導」 佐藤 大郎君

## ○三田社會學會

一、「例會」(學生相互研究會)(本學期計八回) 毎週木曜 於三田エビスホール乃至大和屋、

研究題目 「社會學史」 テキスト Fezer, H.: Einleitung in die Soziologie, 1931.

今井時郎氏監修「社會學」

清水機太郎氏「個人と社會」

加田哲二氏「近世社會學成立史」

## ○三田哲學會日吉支部(豫科)

### 定期講座

一、「フォールレンダー哲學史講義」 毎週木、金曜日 於同會ルーム 松本 正夫君

二、「Jaspers, K.: Die Geistige Situation der Zeit」 譯讀 毎週月、火曜日 代講 天川 勇君

### 臨時講座

一、「美術史に就て」 六月十三日午後四時、於銀座ラスキン 守屋 謙二君